

令和元年度 第1回小牧市児童館運営委員会会議録

日時	令和元年7月25日木曜日 14時～15時30分	
場所	まなび創造館 多目的室1	
参加者	運営委員	永井勝彦、丹羽三枝子、増田直美、小島恵子、中川裕子、 沖本喜久江、東谷昌子
	事務局	鍛冶屋部長、松永指導保育士、丹羽係長、 森島センター長（児童センター）、野地館長（味岡児童館）、 寺田館長（篠岡児童館）、波多野館長（小牧児童館）、 安藤館長（小牧南児童館）、水野館長（北里児童館）、 豎山副館長（西部児童館）、坪井館長（大城児童館）、小川
欠席者	運営委員	来治英治、伊藤恵子、堀由貴
傍聴人	0人	
司会	<p>本日はお忙しいところ、会議にご出席いただきましてありがとうございます。ただいまから、令和元年度第1回小牧市児童館運営委員会を開催します。私は司会を務めさせていただきますことも政策課の丹羽と申します。よろしくをお願いします。</p> <p>はじめに、4月1日付けの関係組織の人事異動に伴いまして、委員の変更がありましたのでご紹介させていただきます。児島綾乃委員が退任され、新たに堀由貴委員に本運営委員会委員をご承諾いただきました。</p> <p>続きまして、会議の定足数に関して報告します。小牧市児童館の管理に関する規則第14条第2項で過半数5名の出席が必要とされていますが、本日は7名の委員が出席しており、会議は成立しています。</p> <p>また、この会議は公開となっておりますが、ただいまのところ傍聴者はいません。では最初に、こども未来部長の鍛冶屋より、あいさつを申し上げます。</p> <p>皆様、こんにちは。本日はご多忙にもかかわらず、第1回小牧市児童館運営委員会にご出席を頂きまして誠にありがとうございます。また、皆様方には本市の教育・福祉行政の推進に日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、今日の児童館の運営については、運営委員会の皆様をはじめ、関係各所の皆様のご尽力のおかげで、市内外から高く評価されていると感じています。昨日開催されました「放課後児童検討委員会」でも、委員長から「本市の児童館は施設面・運営面ともに大変充実している。」というご発言を頂いております。また、近隣市と隣接する児童館では、小牧市以外の地域の方のご利用も多いと聞いております。</p> <p>本日の委員会では、昨年度の児童館活動の実績報告をさせていただきます。こどもたちが巻き込まれる痛ましい事件や事故が絶えない昨今、安心して遊</p>	
こども未来部長 あいさつ		

ばせられる場所として、児童館はなくてはならない場所と考えております。子どもたちはもとより、子育て中の保護者の皆様、さらには地域の方々から親しまれ、信頼される子育て支援の拠点となるよう、今後もさらに充実した運営を目指していきたくと考えておりますので、本日は委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

司会

それでは、議事に入ります前に、本日初めてご出席される方もお見えですので、自己紹介をお願いしたいと思います。永井委員長から順番にお願いします。

自己紹介

(自己紹介)

司会

ありがとうございました。それでは、議事に入ります。ここからの進行につきましては、規則第13条第2項で「委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。」ことが規定されていますので、永井委員長よりお願いします。なお、質問につきましては議事の後にいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

委員長

それでは、議事に入ります。平成30年度児童館・子育て支援室実績報告について、事務局の説明をお願いします。

センター長

(資料1-1により説明)

最初に、平成30年度児童館利用実績報告をさせていただきます。上段が30年度、下段が29年度の数値です。また、「個人任意利用者数」とは自由来館者の人数です。「集団指導等利用者数」の内訳の内容は、「集団指導」とは自由来所した子どもが工作や手芸を行ったり、1歳からの未就園児を対象にした親子で楽しむちびっこ広場のことです。「体力増進」は卓球や運動クラブ、体育クラブなどを示しています。クラブとは母と子クラブ、クッキングクラブ、ものづくりクラブなどのクラブを示しています。「団体任意」とは子ども会連絡協議会の催しや父母クラブの主催の催しを示しています。児童センターが昨年度に比べ総利用者数にかなりの伸びがあるのは、30年度の9月にラピオの5階に移転したことによるものと思います。

全体的に小中高生の利用は減少していますが、総利用者数は前年度に比べ増加しています。特に幼児、保護者の利用が増加しているのは、昨年度の8月末に乳幼児親子が対象の遊び場だったラピオ4階の子育て広場が廃止され、その分の利用者が3階の子育て世代包括支援センターに集約されたことによるものと思われます。児童館は0歳～18歳まで利用できる施設ですの

で、幅広い年齢の方が楽しんでいただけるよう、今後も各館、工夫をしながら館の運営をすすめていきたいと思っています。

続いて平成30年度子育て支援室利用実績報告について、説明をさせていただきます。

(資料1-2により説明)

各児童館には子育て支援室があります。全体的に利用者数は減っていますが、相談件数については子育て世代包括支援センターをはじめ、西部児童館、味岡児童館で大きく伸びています。なお、支援室は0歳～3歳までの乳幼児の親子が対象です。地域の子育て中の方が気軽に来られる場として、遊びながら相談ができる温かい雰囲気、親子に寄り添った支援を大切にしています。これを実現するために、年3回の職員研修を行っておりますので、引き続き相談業務のスキルアップを図ってまいります。

続きまして、平成30年度児童館行事活動報告について、説明をさせていただきます。

(資料2-1により説明)

児童センターは「遊びを通して友だちとの輪を広げる」という目標で行事の計画を立てています。子どもたちや保護者が楽しんでいただけるということを考え、季節的な行事、伝統的な行事、児童センター独自の行事をアイデアを出しながら前年度の反省をもとに進めています。

行事名の頭に「ちびっこ」という名が付くものは乳幼児親子が対象の行事です。育児で単調な毎日になりがち、また、閉塞感を感じやすいお母さん方が子どもと一緒に季節を感じて楽しんでいただけるように、そして親子同士の交流の場になるように工夫しています。それ以外の行事は乳幼児だけではなく、小学生や幼児親子などを対象に行った行事です。こどもスタッフが企画した「おばけやしき」は大盛況でした。自分たちが考え作った案を実現させ、当日は受付、音響係、お化けなどの自分の役割を張り切って行い、役割同士が声を掛け合ったり、小さい子を優しく案内したりするなど、汗だくになりながらも充実感が味わえる一日になりました。

ラピオに移転し、中部公民館の時の狭さはなくなりましたが、どこからも見える開放的な空間であることから、人の目を気にする小中高生の姿がぐっと減りました。また、移転前までは乳幼児親子を対象にした子育て広場だったこともあり、児童センターが移転してきたとは知らずに利用する方が多く、利用者の中心は乳幼児親子でした。利用の仕方は、買い物帰りに寄って、子どもを遊ばせて親は休息する、といった感じのフリースペース的に使う姿が見られました。そのため、玩具は使いっぱなし、壊れることも度々起こりました。また、利用された方からは乳幼児の玩具が少ない、子ども同士のトラブルに介入してもらえなかったなどと時に厳しいご意見もいただきました。児童センターとしての役割を果たすためには、小中高生に利用してもらうためにはどうしたら良いか、また、利用された方からのご意見を受け止め改善

策をと、職員と話し合いを重ねました。

その結果、児童センターを知っていただけるような周知の工夫、小中高生が楽しく過ごせ、居心地の良い場と感じてもらえるような環境の工夫、そして、何より来館された親子や小中学生と関わり、コミュニケーションを大切に、一緒に遊ぶ中で児童センターのルールや良さを感じてもらえるように職員みんなで心掛けました。現在は「今日は仕事がやりたい」「昨日の続きでボードゲームをやりたい」「卓球ができるから来たよ」と目的を持って何度も来館してくれる小学生が増えてきました。その他にも、中高生の利用が増えるように飲食や学習できるスペースを作り、中高生優先エリアとして落ち着ける場の提供をはじめました。ワンフロアの中に0歳～18歳未満の年齢が共存するのは難しさを感じることもありますが、「誰もが気軽に来られる、楽しい場」となるように職員と心掛けていきたいと思えます。

味岡児童館長

(資料2-2により説明)

味岡児童館は30年度も「地域の輪、友達の輪を広げよう」を目標に掲げ活動を行ってきました。味岡児童館の理念の一つである、「地域ぐるみで育ち合う児童館」として、活動に協力、支援して下さるサポーターの方々といくつかの行事を企画、実践してきました。8月の「サマーフェスティバル」、1月の開館6周年を祝う「ハッピーバースデー」の餅つきなどの大イベント、また、季節や伝統を伝えるイベント、10月の「ザウルスマんじゅう」、3月の「おこしもの」の調理企画では、サポーターの方が講師になり、子どもたちが様々な体験を通し、育つ力の一助になるよう行ってきました。その多くがかまどを利用しており、次世代の担い手が育ってくれたらという思いも込め、4月には「かまど名人」と名を打って、ご飯炊きを行いました。ご飯炊きの体験に留まってしまっ、かまどになじむところまで至りませんでした。行事に対する反省でもあります。行事は社会教育の観点で計画をすることが多いですが、児童館の主役は子どもですので、子どもの声を聞き、具現化できるように取り組むことが必要と感じています。

子育て支援について、支援員を中心に、育児に対する不安や心配を軽減しようと親子を温かく迎え入れています。週に2回「赤ちゃんサロン」での出会いがママ達をつなぎ、同じ育児をする仲間として、いい関係が生まれています。また、遊びのスペースがワンフロアでつながっているため、自然と子育て世代親子と小中高生が交流する様子もみられ、2月の「ぱるもあお楽しみ会」では、様々な世代がダンスや演奏などを発表し、「成長を感じるのが励みになる」という声がありました。土日を中心に父子利用も増え、協力体制はできつつも、多胎児育児の方が増えていることもあり、支援のニーズが家庭生活の場面だと感じる場合があります。生活の中で役立てていただこうと、「絵本でイングリッシュ」という英語で読み聞かせを行う講座を開催しました。また、パパが赤ちゃんに触れ合う「ベビーマッサージ」は赤ちゃんとの関

わり方を知る機会となり好評です。

味岡児童館は「中高生の集い使える児童館」として、5月、10月のコンサートには味岡中学校吹奏学部、小牧工業高校マーチング部がそれぞれ演奏を披露し、地域の方との交流の機会をもちました。夏休みにはギター講座を設け、中高生の主な利用目的である学習以外でも、「集える」場であることをアピールする機会にもなりました。学習以外での居場所利用としてどのような環境が整えられるのか、今後も検討していく課題の一つだと思っています。

また、地域には外国にルーツを持つ人もいて、「ワールドミュージック」、「インターナショナル遊び」を開催し、各国の音楽や遊びを通して他国文化に触れる機会を設けました。毎週火曜日には、母語教育としてポルトガル語教室を開催し、ポルトガル語を母語とする親子のサポートをする機会を持っています。言葉の壁を感じる子育て親子の利用もあり、今後どのようにサポートしていくのが課題です。

どの世代においても育ちの支えとなるように、今年度も努めていきたいと思えます。

篠岡児童館長

(資料2-3により説明)

篠岡児童館も平成30年度、様々な活動を行いました。そのどれをとっても、篠岡児童館も5つの理念に基づき、「児童館であそぼう・楽しもう。地域と共に育ち合う」ということを重点に置いて行ってきました。

篠岡児童館の特色でもある、年間8回開催されるコンサートや篠岡児童館三大行事の5月の「児童館まつり」、8月の「肝だめし」、2月の「もちつき」これらは特に地域のサポーターの方々のご協力と、また、児童館の隣にあります篠岡小学校、篠岡中学校との連携なしでは行えません。携わってくださる皆さんが子育てのバックアップとなるように、また、子どもたちが健やかに育つようにと力を貸していただきます。30年度もたくさんの方に楽しんでいただきました。そういった中で、成長していく子どもたちの姿を目にすると、地域で子どもを育てることの重要性をとて感じます。これからもサポーターの方々や小中学校と連携を図って進めていきたいと思えますが、今後の課題として、地域のサポーターの方々がこの先ずっと同じ方がやっていくわけではないと思うので、今後のつながりや継続といった部分は必然的に課題となると感じています。

また、英語の講座を各月に行っていて、年に4回あるワールドミュージックでは世界の楽器に実際に子どもたちが触れて音を奏でることで、他国の文化を感じたり知っていく貴重な時間となっています。篠岡児童館にも他国籍のお子さんや親御さんが多く来館していただきます。人間が生きていく中では自分の周りには様々な人がいます。肌の色が違う人、髪の色が違う人、価値観の違う人もいれば文化が違う人など様々です。しかし変わらないのが命の重さです。子どもたちが生きていく中で、いろいろな人と出会うことにな

小牧児童館長

ると思いますが、どの人に対しても愛おしい存在であると感じ、違いを認め、共に生きていけるようになってほしいと願っています。児童館のそういった活動が多文化共生のきっかけ作りとなればと思います。

最後に、日々児童館で子どもや子育てしている保護者の方を見ていると、時代は変化しているのだととても感じます。それと同時に児童館はどうかといつも考えます。時代が変わっても大切なことは変わらずにいたいと強く思いますが、変わらなければいけないところを変えずにすることで、時代の変化にあまりにも取り残されて、本末転倒になってしまわないかと不安にもなります。今までがこうだったから、今もこれからも…という思考停止状態ではいけないと感じています。そのために、その他の館ともっと情報交換をしたり、共に考える時間を持つたりすることもとても大切なことだと思っています。私たちは常に子どもたちや子育て支援のために、日々努めていきたいです。

(資料2-4により説明)

地域に根付く児童館として、「楽しく過ごしていただける居場所づくり」「あそびを通しての仲間づくり」を目標に運営をしています。季節の行事も大切に、夏まつり、ハロウィン、12月のクリスマス会、3月のおこしもの作りなど父母クラブ、こどもプランナーと共に行っています。

子育て支援室では、育児の疲れを少しでも取り除く気分スッキリ「リフレッシュ講座」をはじめ、近隣の床屋さん、歯科医を招き、散髪の仕方、歯磨き指導をはじめ、悩み相談Q&Aと、母親からの要望を取り入れた講座を行っています。家庭的な雰囲気づくりに心がけ、いつでも子育てママを迎えられるよう職員は日々心がけています。土日になると、最近では父親たちの姿も多く見られ、我が子と一緒に遊ぶ姿は微笑ましくも感じられます。

昨年に比べると支援室利用の親子の来館は少なく、その分落ち着いてゆっくり遊んで行かれる姿が見られます。しかし、使ったおもちゃを片付けずに帰られる親子もチラホラ見かけます。支援室のあり方を職員と再確認しながら、利用者さんにまた来たいと言ってもらえるよう努めていきたいと思っています。

昨年初めての試みとして、児童館で一泊し、いつ起きるかわからない自然災害時に向け、被害を想定し家族で話し合う「親子防災体験」を考えておりましたが、募集の期間が短く周知ができず、残念ながら見送りとなってしまいました。今年度9月にリベンジしようと考えています。

児童クラブやお稽古事に通う小学生も多いですが、一斉下校や授業の時間が短いB日課の日には、友だちと約束し合って来館してくれます。子どもたちがいつ来ても楽しく遊べる工夫をこれからも考え、遊びを通して、子どもたちと関わっていききたいと思っています。

(資料2-5により説明)

小牧南児童館は、小牧市南部コミュニティセンターとの併設館で、ふらっとみなみの愛称で親しまれており、今年の4月でちょうど10年を迎え、只今11年目に入っております。部長からの話にもありました通り、春日井市と近いこともありまして、市外の方の利用も非常に多いのが特徴です。

当館では、ふらっとみなみ運営協議会という地域の方で構成された協議会との共催で七夕や節分、ひな祭りなど、季節のイベントを中心に多数のイベントを開催し、様々な世代の方々と交流を深めながら、児童館の運営を行っております。30年度は10周年という事もあり、夏祭りや三世代交流会、ハロウィン、クリスマスなど、例年実施しているイベント等も10周年の冠を付けて、規模を拡大し、大変多くの方にご参加いただいております。

また、30年度に力を入れた事業としまして、子育て支援室で新たに乳幼児を対象とした企画を行い、子育て支援活動を盛り上げました。0歳からの人形劇や、寝ころびアート、仮装を楽しんだハロウィン、手形スタンプを使ったクリスマス特別企画等、大人も一緒に子どもと楽しめる内容を行うことで、「子どもと一緒に楽しい」と思える子育て支援に尽力しました。この他、外部企業、団体と連携し、食育や救急救命等、子育てに有益な講座なども実施し、ご好評を得ております。

さらに、30年度に実施しました新規事業としまして、児童館南側にある公園を利用した自転車の補助輪外しの企画や水鉄砲を使った企画など、広いグラウンドのある立地を生かし、館内だけにとどまることのない事業も実施し、今年度につなげています。またこのような企画は父親の参加もしやすく、土日に父親の来館が多い事から「父親の子育て参画」も意識して行っております。

また、昨年10月に更新されました新しい児童館ガイドラインにある通り、「子どもが主体である」という事を鑑み、子どもにとって最善の利益を優先した運営を目指しております。子どもたちの参画を促す観点から、子どもプランナーという、小学3年生以上の有志の子どもたちによる事業もその一つです。これは、館で行われるイベントを企画したり、お手伝いをしたりと子どもの意見を児童館の運営に反映させるものですが、この活動も9年目を迎えました。子どもたちの入れ替わりもありますが、自分たちで考え、行動できるようになってきています。その姿を見て、また下の年齢の子たちが育ってくれたらと思っております。

また、子どもの最善の利益を迫及するため、工作の制限撤去などにも着手しています。これにより児童の滞在時間は増え、「1日中遊べる施設」として地域の方々に認知されてきたように思えます。これに伴いまして、利用者数が増加傾向にあります。延べ床面積の割合からすると少し利用者が多すぎるのではないかと、という安全面から見た収容人員について少々、問題があるように感じております。また、静養室、相談室といった場がないことに加え、

職員の忙しそうな様子から、相談がしにくい雰囲気になっていないかというのも心配な点です。利用者数が増える事は本当に嬉しいことですが、それにより職員の準備や対応時間、消耗品も多くなります。利用者が増えれば増えるほど、自分たちの首を絞める結果にならないよう、人件費や行事活動費の配分を考え、誰もが気軽に「ふらっと」立ち寄り、すべての方々が「ほっ」と一息つける居心地の良い空間であること、そして、当児童館の目標でもある「全ては子どもたちのために」という想いが職員だけでなく、保護者や地域の方々に広がっていくことも目標に今後も活動を行っていききたいと思います。

北里児童館長

(資料2-6により説明)

重点目標の「初心にかえり、地域の子育てや子どもたちが楽しめる行事を提供する」を意識して、チャレンジと基本に忠実に、を心がけました。子どもが自分で選んでくることが出来る場所が児童館です。その第1歩になる新1年生歓迎会を行いました。児童館のルールをご理解いただくために、保護者も一緒に楽しみながら参加していただきました。令和1年度の新1年生歓迎会は、卒園後の3月末に行い、小学生になると1人で児童館へ行くことができる期待と不安を胸に、保護者とともに参加していただきました。児童館での遊びの紹介では先輩のお兄さん、お姉さんへ期待のまなざしがありました。また、先輩の姿は自信に満ちており、先輩にも1学年進級する期待が見られました。

平成30年度は、学校での友達関係が上手くいかないかと相談を受けていた1年生が1つ先輩になり、児童館がきっかけになり、頑張って練習してきたけん玉を披露してくれました。けん玉で自信がつき、友達関係も上手くいきかけているという報告も頂いています。継続してサポートしてきたことが実った日でもあり、とても嬉しい1日でした。

8月の夏休みに恒例となっている「光と影の部屋で遊ぼう」では新しい取り組みで、「まっくらボウリング」をしました。暗い中で光るピンを目指して投げ、キラキラ幻想的なボウリングとなりました。北里市民センターの講堂をお借りしているので、館内ではできない迫力があるボウリングができました。広い、暗いとハメを外しやすい環境がある中、やはり自分だけが楽しければいいという小学生もいて、注意をする場面もありました。北里児童館のメイン企画を中止にすることはできません。子どもたちと企画し、子どもたちが作るからこそ、楽しむにはどうしたらいいかと考える企画にしていきたいと思います。

1月には資料にある掲載行事の他に、「おはなし玉手箱」を開催しました。プロの声優の方が来て目の前で読み聞かせをしてくれるというものでした。プロの声は本当に素晴らしく、付き添いの保護者の方からも感激の声を頂きました。子どもたちの感想は、「1人のお姉さんで何人分も色々な声が出てい

た」「声優ってすごいね」というものでした。また、声優になりたいという中学生がいて、プロの声にますます夢は固まったようで、終わった後にも思いを聞かせてくれました。児童館行事の中で夢に繋がるお手伝いのできたことは新しい体験でした。

1歳前から英語に触れ合わせたいとの要望が多く、毎月開催している「Peek-a-Boo」と「わらべうた産後ダンス」の申込は、キャンセル待ちが出るくらいの人気です。将来を考えて少しでも早く英語に触れさせたい、また、昔ながらの「わらべうた」が人気なのは母親の気持ちが育ちつつあると思います。これからも子育て支援室では利用者のニーズに応え、「ホッとできる」「あたたかい」育児のお手伝いをしていこうと思います。

3月のクラブ申込の際、車いすの幼児が児童館を利用希望されました。運動あそびクラブの付き添いで、車いすで生活をしている妹も一緒に来館することになるということでしたが、北里児童館は2階にあり、どうしたらよいか、一緒に相談しました。こども政策課と北里市民センターの了承を頂き、緊急時の非常口を開け、北里市民センターのエレベーターを利用してあがってもらうことになりました。今後も車いすの方にご来館いただくためには、館内利用時の車いすスペースの確保、どういったものが提供できるか、行事の案内をしていくためには進行上にどんな配慮をしたらよいか、なにを追加していくか。こども政策課はじめ関係方面に指導を受けながら、全職員が更に勉強していきたいと思っています。

今後も地域の方々に助けをいただきながら、0歳から18歳の対象年齢を意識して、常に新しい取り組み、また、安心出来る居場所としての児童館でありたいと思います。「とりあえず児童館に行ってみるか」と児童館が居場所になってくれるよう子どもたちの気持ちに寄り添い関わっていこうと思います。

西部児童館副館長

(資料2-7により説明)

西部児童館では、「笑顔になれる場所」を目指し、来館者が笑顔になって帰っていただけるよう心掛けています。コミュニティセンターとの複合施設として、運営協議会の方々や地域の方々にご協力していただきながら取り組んでおります。

昨年度も「地域との連携」として、運営協議会との合同イベントをたくさん開催できました。今まで以上に協力をいただき、例年開催している、7月の「おすもうさんとあそぼ」や12月の「音楽祭・クリスマス会」の他に、初めてのイベントとして、9月の三世代交流会で大型ダンボール迷路を楽しんでいただきました。運営協議会の方が地域の会社よりもらってきていただいたダンボールで、遊戯室いっぱいの迷路ができました。今後も続けていきたいと考えています。また、2月の節分では、昨年度から児童館内だけでなく、コミュニティセンターのエントランスを利用し、イベントを行うことが

できました。階段の踊り場から運営協議会の会長、副会長、コミュニティセンターの所長に豆まきをお願いし、子どもプランナーやコミュニティの職員、児童館の職員が鬼になって節分行事を行いました。たくさんの方に参加してもらい、楽しく終える事が出来たので、来年度もこういった形のイベントにしていけたらと考えております。

また昨年度は、児童館独自のイベントとして、未就園児が参加しにくいものが多かったため、11月に支援まつりを行いました。初めての開催でしたが、来館者も多く親子で楽しんでいただけました。

子育て支援室は、昨年7月よりスペースを今までの3倍近く広げ、夏休み中もゆったりと楽しんでいただけるようにしました。また、0ヶ月～ハイハイ期までが対象のひよこ広場と、1歳前後に参加できるちびっこ広場がありますが、その間の子を対象とした広場がなかったので、昨年度から新たにらっこ広場をつくりました。広い遊戯室で、のびのびとハイハイできたり、体を動かしたりと楽しんでいただいております。

クラブ活動は、昨年度からの要望も多くあり、手芸を中心とする「ちくちくハウスクラブ」、子どもでも簡単にできるおやつ作りの「プチパティシエクラブ」を新設し、活動しています。

子どもプランナーの子どもたちには1年を通してイベントの企画や、お手伝いなど、すべてのイベントに参加してもらい、ボランティア活動の楽しさを知ってもらいました。昨年は20名以上の登録があり、これからもたくさん子どもたちにボランティアのすばらしさを知っていただけるよう努力していきたいです。しかし、世代交代が進み、今年度は所属する子の人数も減少しており、活動内容の改善や応募の仕方などが課題となっています。

また、昨年度からの課題として、中学生・高校生の来館が減少しております。中高生向けのボードゲーム等遊びの充実や、これまで行えていなかった中学生以上を対象にしたイベント等も企画し、今後力を入れていきたいと考えています。

大城児童館長

(資料2-8により説明)

大城児童館は10年目の運営となりました。当初から掲げている5つの理念を目標にして、継続した運営をさせていただいております。一つ目が「地域ぐるみの運営」、二つ目が「多世代での子育て」、三つ目が「中高生の居場所」、四つ目が「多文化共生の実現」、五つ目が「社会教育」です。

「地域ぐるみの運営」としては、地域の方に色々な形でサポートをしていただいております。講師を紹介してもらったり、大きなイベントのときにはサポーターとして入っていただいたりしてもらってきました。10年経つと世代も変わってきて、当初は乳幼児親子で来館いただいていた方が、中学生の親になり、新しい形でサポーターとして加わっていただいております。

「多世代での子育て」という面では、地域のサポーターの方がお孫さんを

連れて来られることも非常に多いです。お父さんの子育ては当然のことながら、おじいちゃん、おばあちゃんがお孫さんを連れてこられることが多くなっています。中には離婚されている方もいらっしゃいますので、色んな家庭環境に合わせて子育て支援を行っています。毎月スーパーアドバイザーの元保育園長の先生に来ていただいて、ケース検討をしながら、特にお母さん支援をどうするかということで、行っています。大城児童館は他市、特に春日井市の方の利用がとて多いのですが、他機関へつなげるということになったときに、虐待の関係などで相談を受けたときには市を超えて連絡をしたりすることもあります。どのようにしたらよいかということが難しいです。

「中高生の居場所」としてはいくつかありますが、特に11月のミュージックフェス、12月のクリスマスコンサート、3月の吹奏楽部のコンサートなどで来ていただいています。また、毎週、ジュニア奉仕団の子が児童館へ来てくれますので、児童館の季節ごとのイベントの飾り付けなどをしてもらっています。大城児童館ではプランナー制度は設けていませんが、ジュニア奉仕団で来る子がアイデアを出してくれています。中にはやんちゃな子もおり、グループになると少しはめを外してしまう子もいますので、注意してみている、時には指導することもあります。

「多文化共生」の面では、桃花台エリアでは最近中国の方が多くなってきています。日系ブラジル人の方は元々多いですが、その方たちも家を購入して子育てをしながら、定住する人たちが増えています。国に帰るときのための母語教育もやっていますが、日本語が母語のようになってきている人も多く、小牧が第二のふるさとだと思ってくださっている方も多いです。昨年度は、犬山のNPO法人の多文化共生をやっている方に、児童館で子育てサロンをやらないか、ということで声をかけていただいて、日本語を学びながら子育てサロンをする企画を3回行いました。外国籍の方の中で子育てに関する情報の格差が大きいので、情報をどのように伝えていくかが課題として見えてきました。館便りの翻訳などはこれまでやってきていますが、それだけではなく、上手く伝えていく方法を考えていくことは必要になってきていると実感しています。今年度も多文化共生の子育てサロンを数回実施しながら、どのようにやっていったらよいかということ学んで培っていきたいと思っています。

「社会教育」としましては、地域の方と一緒にやっている夜のコンサートやお祭りで支援をいただいて展開をさせていただいています。そういった中での課題は、地域が高齢化してきていますので、子育て世代が戻ってこられるように、私たちの児童館で、色んな情報を流しながら支援していきたいと思っています。

それでは、委員の皆さんにご質問やご意見をいただきたいと思っています。最初に、資料1-1、1-2について、何かある方はいらっしゃいますか。

委員長

(特になし)

それでは、各館からの行事報告で何かある方はいらっしゃいますか。地域の高齢化、多国籍の支援、サポーターの世代交代、他市の利用者に対する支援、子ども同士のトラブルなど、様々な課題が報告されましたが、ご自分の立場から感じられたことをお願いいたします。

中川委員

トラブルにどこまで介入するかということについてですが、学校も家に帰ってからの友達同士、ご家庭同士のトラブルを相談されることがすごく多いです。「家に帰ってからのことは知りません。」というわけではないのですが、学校が良かれと思って介入していくことで、逆に攻撃されてしまうことがあります。学校外で起こったことは、できることは協力するけれど基本的にはご家庭で解決してもらおう、というスタンスでないと、難しい世の中だということを感じています。

児童館の中で起こったことは、保護者の責任だと思いますが、具体的になにか参考になることがあれば、教えてください。

センター長

発達的に遅れのある子が、遊んでいた相手の子を突き飛ばしてしまい、突き飛ばされた子のお母さんが、突き飛ばした子のお母さんに怒鳴ってしまった、ということがありました。児童館の来館者は全くの他人同士ですので、謝ったり状況を伝えたりすることが、誰かが介入しないと難しいことがあります。しかし、そのときは職員が把握できていませんでした。ままごとコーナーのあたりで起きたことでしたが、子どもたちの好きなままごとコーナーが広いフロアの死角になりやすいところにあること自体も問題であり、まずは把握ができる状況を作っていこうということで、物の配置を考え直し、また、全体に目を配るという意識を持つよう、改善していきました。

中川委員

昨日の、児童クラブや放課後子ども教室のことを話し合う会議で、小牧市は児童館がすごく充実しているから、放課後の子どもたちの過ごし方にも、児童館の人的・物的資源を上手く取り入れながら、子どもたちの放課後を総合的に見ていくといいのではないかという話がありました。今のお話を聞いて、トラブルがあったところをこんなに丁寧に見てくださっている公共施設はないと思います。本当にありがとうございます。

丹羽委員

すぐその場で改善策を考えられたことに意義があったと思います。利用者目線を基本においてみえることが、利用者が「ほっとできる、また来たい。」という気持ちになる。一つ一つの問題解決をすぐに行うことが、児童館の質の向上に繋がると思います。

東谷委員	<p>発達障がいのお子さんについて、保護者の方が障がいについて説明をしてくだされば対応もしやすいと思いますが、説明されない場合に、どのように対応していますか。</p>
センター長	<p>保護者の方が対応に困っている場合には目に留まりますので、必ず声をかけるようにしています。その時には問題解決をしようとするのではなくて、保護者の方と一緒に悩んで考え、一緒に苦勞してあげるようにしています。とにかく声をかけるということを徹底するようにしています。</p>
永井委員長	<p>いろんな問題がある中で、本当に丁寧にやっていただいているということを感じます。北里児童館の車いすの子の話でもありましたが、よく話を聞き、気持ちを交わすことで解決方法を探っていくということをされているので、本当に頭が下がります。働き方改革の中でよくやっていただいているなど感じます。</p>
増田委員	<p>支えてくださっている方の高齢化についてですが、私たちの年代の方が協力するということが少ないというのは感じます。どうやって声をかけたら地域の方々に協力を得られるか、私たちも悩んでいるところです。</p>
沖本	<p>味岡はサポーターが多いようですが、子育てが終わった方が多いのですか。</p>
味岡館長	<p>はい、子育てが一段落された方が多いです。理想は、今乳幼児親子で来館されているお母さん方が、児童館に愛着を持って、サポーター活動に参加してもらえると一番良いと私たちは思っていますが、その辺りの繋がりがまだないというのが現状です。</p>
沖本委員	<p>地域で理解してやっていっていただけると良いですね。</p>
小島委員	<p>周知の仕方について、回覧で児童館の行事を見ますが、回覧ではなかなか広まらないので、何か別の方法で周知できると良いなと思います。また、児童館自体がものすごく広いというわけではないので、それこそ車いすの方などは利用しづらいところがあると思います。</p>
永井委員長	<p>こうして運営委員会に参加させてもらっていると児童館がどれだけ豊かな活動をしているかということはよくわかるのですが、他の方はなかなか知る機会がないと思います。祭りなどの行事で、多世代で参加してもらって、見てもらえると良いですね。広報誌にPRするのも一つでしょうが、生を見ていただくのがいいと思います。そういった点で行事を使うのも一つの方法だ</p>

	<p>としました。</p>
中川委員	<p>今の件に関連して、現在各小学校区に地域協議会が立ち上がっています。おばあちゃん世代の方に優しく教えてもらえると、少しやんちゃな小学生たちも素直に聞けますので、地域協議会を利用して児童館をPRできるかな、と思います。</p>
丹羽委員	<p>「居場所作り」というワードが色んな館ででてきましたが、具体的にどこにかしていることはありますか。</p>
センター長	<p>先ほども児童センターの課題としてあげさせていただいたのですが、スペースもだだっ広く、エスカレーターから上がってくるとすぐに目に入ってくる場所ですので、中高生の年頃の子や不登校の子からすると、大人の目線が気になったりすることがあり、開放的がよいばかりではないと感じることがあります。友達同士でワイワイできる空間が楽しいと思う子もいれば、隅のほうで静かに漫画を読むことが心地よいと感じる子もいるので、その子にとっての居場所を探しながら、作ってあげたいなとは思っています。</p> <p>中高生にとっては、飲食ができたり、幼児や小学生とは別に、落ち着く場所が欲しいだろうと思い、最近優先エリアを作りました。年齢にあった場所作りもしていきたいと思っています。</p>
沖本委員	<p>色んな気持ちの子がいるので、とても良いなと思いました。</p> <p>飲食は指定した場所でOKということですね。お金は持ってこないというルールですよ。</p>
センター長	<p>はい、指定した場所でOKにしています。お金は持ってこないルールです。</p>
中川委員	<p>子育て支援室で相談を受けているということが、学校としてもとてもありがたいと思っています。今日も、就学にあたって普通学級に進むか、特別支援学級に進むかという相談を受けてきたところですが、お母さんは今までの悩みなども全て話してくださいました。それは、これまでも色んなところで相談して、「よかった」という気持ちがあるからだと思います。</p> <p>子育て支援室ではいつでも相談できるということで、これからも充実してほしいです。それこそ知らない方もいるのでたくさん周知をしてほしいと思います。これからも色んな機関で繋いでやっていけると良いなと思うので、またよろしくお願いします。</p>
永井委員長	<p>各児童館の職員の相談のスキルアップが課題になってくると思うので、子ども政策課には研修の機会をたくさん設けてもらいたいと思います。また、</p>

スーパーバイザーがいると、心強いことだと思うので、そういった手当もお願いできたらと思います。

他にご意見等ありますでしょうか。

特にないようですので、次に報告に移ります。(1) (仮称) こども未来館の整備工事について、事務局からお願いします。

丹羽係長

(追加配布資料により説明)

(仮称) こども未来館の工事の進捗状況についてご報告させていただきたいと思えます。去る令和元年7月4日付けで、安藤ハザマ・三喜特定建設工事共同企業体と工事請負契約を締結しました。整備工事の工期としましては、令和元年7月5日から令和2年7月3日までの約1年となります。大まかな工程としましては、現在着工に向けた現地調査や関係官庁の協議確認を行っているところです。来週、ラピオの2階に現場事務所ができる予定となっています。8月からは工事区画の仮設間仕切りを行います。その後、12月にかけて、既存の床材、天井、壁材や設備器具の撤去や、吹き抜け構築のための床スラブ等の解体撤去を行います。1月頃からは鉄骨、躯体工事を行い、終了した個所から順次内装の仕上げに入ります。5月から6月に遊具や家具の取り付けなどを行い、6月末を完了目標としております。完了検査後、令和2年7月3日に竣工引き渡しする工程になっております。

工事と並行して、運營業務をおこなう委託業者の選定のほか、大学との学官連携により、デジタルコンテンツなどの制作を行うことを検討しておりますが、引き渡し後に、備品の設置やデジタルコンテンツの据え付け・調整作業を行い、来年夏頃に供用開始ができるよう準備をすすめてまいります。

委員長

今ご説明していただいたことについて、ご質問・ご意見等ありますでしょうか。

ないようですので、(2) アニバーサリー事業について、事務局からお願いします。

センター長

(資料3-1、3-2により説明)

アニバーサリー事業とは、成長発達の節目である1歳で親子と会う機会を設け、必要な支援につなげていくことを目的に、今年度7月から開始した事業です。1歳の誕生日の2ヶ月前に、案内とアンケート用紙をお送りします。

アンケートの内容は、資料3-2のとおり、お子さんの成長発達や、お母さんの体調などを聞き取るものになっており、不安なことや相談したいことを記入していただきます。このアンケートを各児童館と子育て世代包括支援センターで回収し、その後、子育て世代包括支援センターで集約・チェックし、必要な支援へとつなげていきます。アンケート用紙と引き換えに絵本や

	<p>タオルのプレゼントを渡すことで、回収率の向上を図るとともに、児童館を知ってもらえる機会と捉え、利用促進につなげてまいります。</p>
永井委員長	<p>この事業についてなにかご質問等ありますでしょうか。</p> <p>今年度初めての事業ですか。</p>
センター長	<p>そうです。</p>
永井委員長	<p>では、これで報告を終わります。</p> <p>続いて、その他、児童館運営委員会について、事務局よりお願いします。</p>
センター長	<p>今年度は、本日を含めまして2回の開催を予定しております。次回は2月頃に開催し、現状報告や、来年度の目標設定などをご提案させていただく予定です。</p>
永井委員長	<p>では、以上で全て終わります。最後に事務局から何かありましたらお願いします。</p>
センター長	<p>お手元に児童館のしおりを配布させていただいています。何かお気づきの点等はございますか。</p> <p>(特になし)</p>
丹羽係長	<p>ありがとうございました。それでは、本日の委員会は全て終了とさせていただきます。皆様お気をつけてお帰りください。</p>